



2024年3月期 第1四半期決算説明会

2023年8月4日
スズキ株式会社

(参考) 表紙画像

- ・7月28日発売、ワゴンRスマイルに新たに設定した特別仕様車「HYBRID Sリミテッド」

2024年3月期1Q決算

- 売上高はインフレ対応に伴う値上げ、インドでの新型SUV投入によるミックス改善効果、半導体不足に伴う減産影響緩和による販売台数増、為替影響等により増加。
- 営業利益は台数増、為替影響、売上構成変化等の改善、原価低減努力等により、固定費増、減価償却費増を吸収し増益。
- 四輪はインド、欧州、日本での販売台数増加、為替影響により、固定費増を吸収し増収増益。
- 二輪は減益となったものの利益率7.5%を確保。在庫圧縮や値上げによる収益改善、体質改善が進む。
- マリンは欧米での船外機需要減少により減収。今後、先進国の動向を注視。

2024年3月期通期予想

- 上方修正を実施
- 売上高は為替の見直し、各地域の市場見通しを踏まえ台数をアップデートし、初の5兆円を見込む。
- 営業利益も為替影響+380億円、台数減▲80億円を加味し、前期を上回る利益を見込む。
- 円高への転換、米国・欧州の景気減速懸念、新興国経済の減速、原材料価格高の再燃等、様々なリスクがあるが、成長戦略で示した設備投資、研究開発投資を推進し、競争力向上に取り組んでいく。

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

2 / 30

今期より、従来のリリースに替え、「決算サマリー」として、今回の決算や今後の見通しについて、我々がどのように見ているか、簡単に説明させていただきます。

まず、第1四半期決算につきましては、

- ・売上高はインフレ対応に伴う値上げ、インドでの新型SUV投入によるミックス改善効果、半導体不足に伴う減産影響緩和による販売台数増、為替影響等により増加しました。
- ・営業利益は台数増、為替影響、売上構成変化等の改善、原価低減努力等により、固定費増、減価償却費増を吸収し、増益となりました。
- ・四輪は、インド、欧州、日本での販売台数増加、為替影響により、固定費増を吸収し、増収増益となりました。
- ・二輪は、減益となったものの利益率7.5%を確保。在庫圧縮や値上げによる収益改善、体質改善が進みました。
- ・マリンは、欧米での船外機需要減少により減収。今後、先進国の動向を注視してまいります。

次に、通期予想につきましては、上方修正を実施いたしました。

- ・売上高は為替の見直し、各地域の市場見通しを踏まえ台数をアップデートし、初の5兆円を見込んでいます。
- ・営業利益も為替影響+380億円、台数減▲80億円を加味し、前期を上回る利益を見込んでいます。
- ・円高への転換、米国・欧州の景気減速懸念、新興国経済の減速、原材料価格高の再燃等、様々なリスクがありますが、成長戦略で示した設備投資、研究開発投資を推進し、競争力向上に取り組んでまいります。

2024年3月期 第1四半期決算	4
四輪台数実績	14
二輪台数実績	20
マリン	21
通期業績予想	22
株主還元	28

2024年3月期 第1四半期決算 | 総括



	(億円)	当第1四半期 ('23/4-'23/6)	前年同期 ('22/4-'22/6)	増 減		補足 ^{※1}
				増	減	
連結 業績	売上高	12,089	10,634	+1,455	+13.7%	3期連続増収、過去最高
	営業利益 (利益率)	998 (8.3%)	745 (7.0%)	+253	+33.9%	3期連続増益、過去2位
	経常利益 (利益率)	1,080 (8.9%)	898 (8.4%)	+182	+20.3%	2期ぶり増益、過去3位
	四半期純利益 ^{※2} (利益率)	671 (5.5%)	583 (5.5%)	+88	+15.1%	2期ぶり増益、過去3位
為替 レート	米ドル	137円	130円	+8円	+5.9%	
	ユーロ	150円	138円	+11円	+8.1%	
	インドルピー	1.68円	1.69円	▲0.01円	▲0.6%	
世界 販売	四輪車	732千台	710千台	+22千台	+3.0%	インド、欧州、日本等で増加
	二輪車	479千台	472千台	+7千台	+1.5%	インド、欧州等で増加

※1 補足のコメントは第1四半期としての評価

2 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

4 / 30

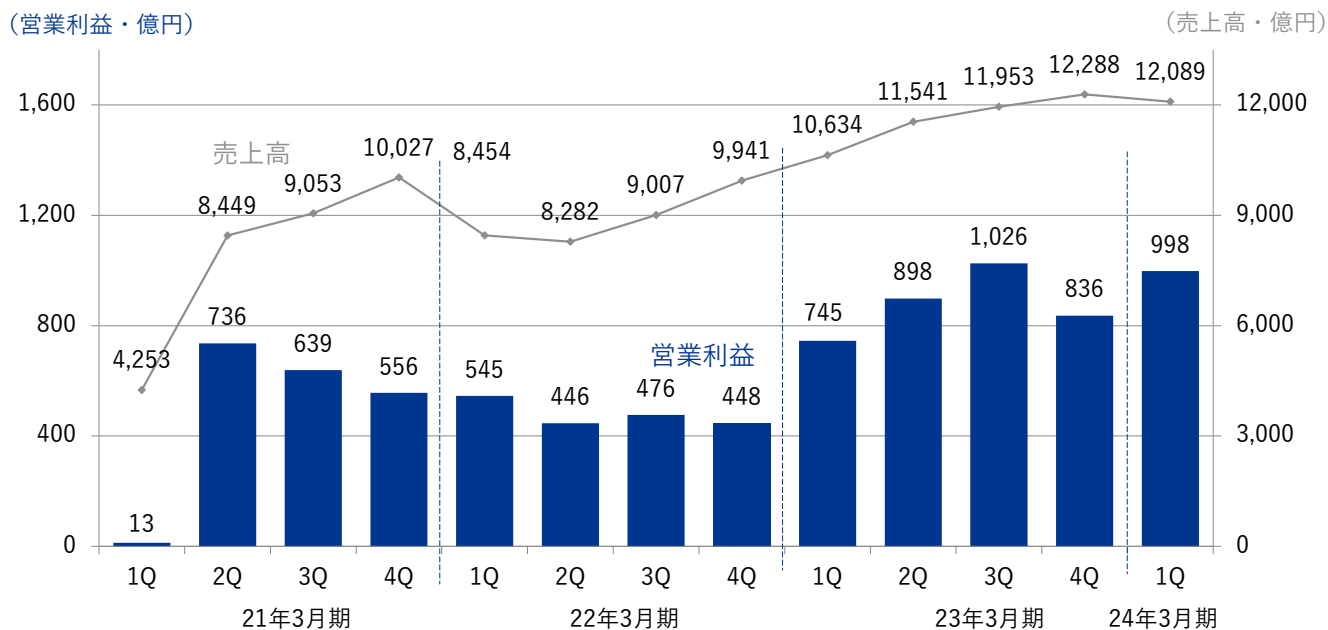
今回の決算の総括をいたします。

売上高はインド、欧州等で販売台数が増加したこと等により、1兆2,089億円と前年同期に比べ、1,455億円増加しました。

営業利益は販売台数増加や為替円安効果等により、998億円と前年同期に比べ、253億円増加しました。

経常利益は、1,080億円と前年同期に比べ、182億円増加、四半期純利益は671億円と前年同期に比べ88億円増加しました。

四輪車の世界販売は、インド、欧州、日本等で増加しました。二輪車の世界販売は、インド、欧州等で増加しました。



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 5 / 30

四半期毎の業績についてご説明させていただきます。

半導体不足に対する調達力・対応力強化に伴う台数増等により、
 当第1四半期の売上高は、第1四半期として過去最高となりました。
 営業利益は、第1四半期として過去2位の水準となりました。

2024年3月期 第1四半期決算 | 売上高の状況



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合計			増減内訳		
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減	
国内計	2,823	2,567	+255	55	61	▲7	10	9	+1	25	27	▲2	2,912	2,664	+248		+285	
自 社	2,582	2,376	+206	55	61	▲7	10	9	+1	25	27	▲2	2,672	2,473	+198			
O E M	240	191	+49										240	191	+49			
海外計	8,043	6,834	+1,210	809	802	+8	325	334	▲10				9,177	7,970	+1,208	+120	+350	
欧 州	1,367	779	+589	148	114	+34	61	72	▲11				1,577	965	+612	+115	+567	
北 米	1	2	▲0	118	149	▲31	184	193	▲9				303	344	▲40	+15	▲56	
アジア	5,368	4,829	+539	401	395	+7	31	24	+7				5,801	5,248	+554	▲49	▲20	
インド	4,715	3,762	+954	245	199	+47	1	1	▲0				4,962	3,962	+1,001	▲29	+379	
〃以外	653	1,067	▲414	156	196	▲40	30	23	+7				839	1,286	▲447	▲19	▲399	
その他	1,306	1,224	+82	142	144	▲3	48	45	+3				1,495	1,413	+82	+38	▲141	
総合計	10,865	9,401	+1,465	864	863	+1	334	343	▲9	25	27	▲2	12,089	10,634	+1,455	+120	+634	
内、為替換算影響			+93			+14			+14									+120

注、当期…2023年4～6月期、前期…2022年4～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

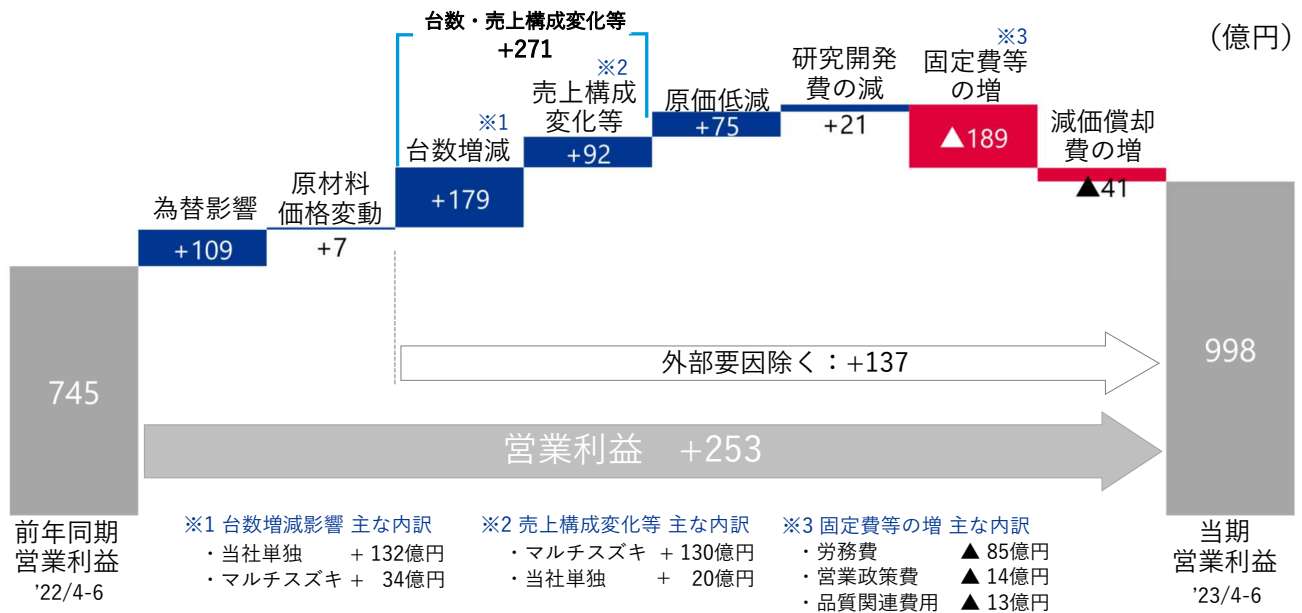
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.

当期の売上高の状況をご説明させていただきます。

売上高はインド、欧州、日本等で増加し、
1兆2,089億円と前年同期に比べ1,455億円の増収となりました。

内、為替影響は+120億円、
販売台数増加は+634億円の増収要因となりました。

事業別では、四輪および二輪事業は増収となりましたが、
マリン事業は、欧州や北米での販売減少により、減収となりました。



当期の営業利益増減要因についてご説明いたします。

当期の営業利益増減要因につきましては、
 為替影響で+109億円の増益、
 原材料価格変動についてはインドでの鋼材価格の落ち着き等により+7億円の増益となりました。

これらの外部要因を除く項目では、まず、台数増減で+179億円、
 売上構成変化等で+92億円の増益となりました。

その他の増益要因としては、原価低減により+75億円、
 研究開発費の減により+21億円の増益となりました。

減益要因としては、固定費等の増により▲189億円、
 減価償却費の増で▲41億円の減益となりました。

固定費等の増は労務費の増加が主な要因となりましたが、
 これは、賃上げ等、人への投資拡大等によります。

	当第1四半期 ('23/4-6)	前年同期 ('22/4-6)	増 減	営業利益 為替影響	
				感応度※2	影響額
ユーロ	150円	138円	+11円	5億円	+55億円
メキシコペソ	7.79円	6.49円	+1.30円	29億円	+38億円
米ドル	137円	130円	+8円	3億円	+22億円
ポンド	172円	163円	+9円	1.3億円	+12億円
南アフリカランド	7.36円	8.34円	▲0.98円	15億円	▲15億円
インドルピー	1.68円	1.69円	▲0.01円	444億円	▲4億円
パキスタンルピー	0.49円	0.67円	▲0.18円	21億円	▲4億円
その他※1	—	—	—	—	+7億円
営業利益為替影響額 合計				—	+109億円

※1 その他…ポーランドズロチ+5億円、インドネシアルピア+3億円 他

※2 感応度…各通貨のレートが1円動いた際の営業利益影響額

当第1四半期の為替レートについてご説明いたします。

今期は期中より円安が進行し、特に、ユーロ、メキシコペソ、米ドル等での円安により、為替影響は+109億円の増益要因となりました。

なお、今回より各通貨の為替感応度を記載いたします。感応度は、当第1四半期における、各通貨のレートが1円動いた際の営業利益に対する影響額を表します。

		当期 ('23/4-6)	前年同期 ('22/4-6)	増減	
	当社単独	154億円	127億円	+27億円	
	子会社	451億円	615億円	▲165億円	
	設備投資	605億円	742億円	▲138億円	
	減価償却費	424億円	383億円	+41億円	
	研究開発費	415億円	436億円	▲21億円	
		当第1四半期末 ('23/6末)	前年同期 ('22/6末)		前期末 ('23/3末)
	有利子負債残高	7,640億円	7,331億円	+310億円	7,638億円 +2億円
	連結子会社数	120社	117社	+3社	120社 -
	持分法適用関連会社数	32社	32社	-	32社 -
	従業員数	71,459人	70,333人	+1,126人	70,012人 +1,447人

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 9 / 30

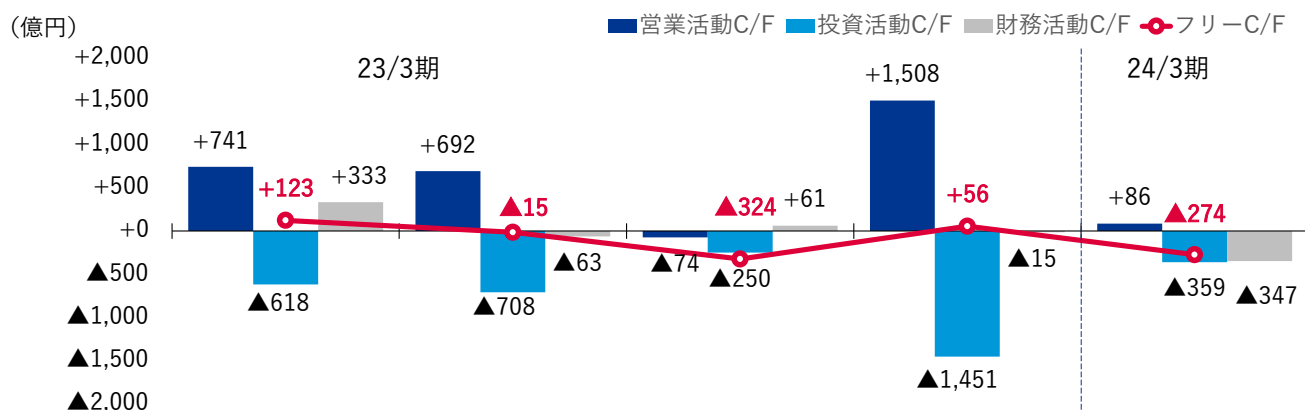
当期の設備投資等についてご説明いたします。

設備投資は、
前年同期はインドのカルコダ新工場用の土地取得320億円があったため、
減少となりました。

減価償却費は、
インドでの新モデルの生産開始等により、41億円増加しました。

研究開発費は、
前年同期に比べ減少しましたが、
期初計画に対しては計画通り進捗しています。

2024年3月期 第1四半期決算 | キャッシュフロー四半期推移



	23/3期				24/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業C/F	+741	+692	▲74	+1,508	+86
投資C/F	▲618	▲708	▲250	▲1,451	▲359
フリーC/F	+123	▲15	▲324	+56	▲274
財務C/F	+333	▲63	+61	▲15	▲347
(内、配当金支払額*)	(▲225)	(▲136)	(▲243)	(+2)	(▲245)
キャッシュ残高	9,215	9,171	8,740	8,821	8,499

※非支配株主への配当金の支払額を含む。

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 10 / 30

キャッシュフローの状況についてご説明いたします。

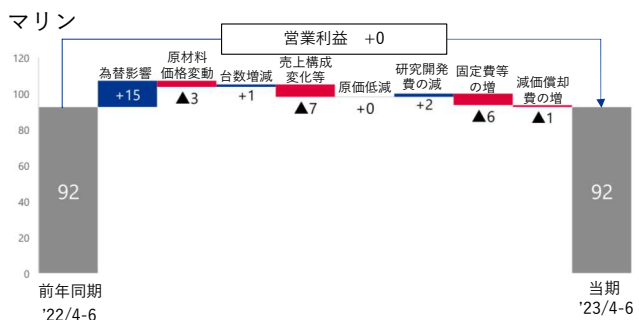
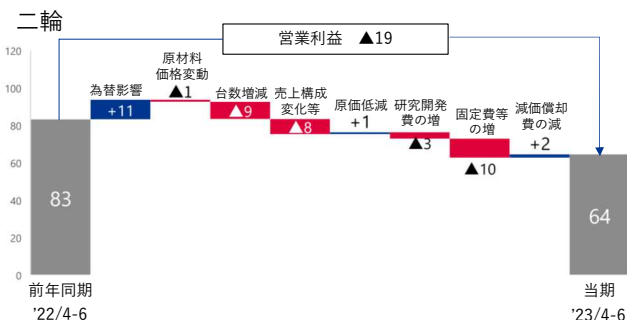
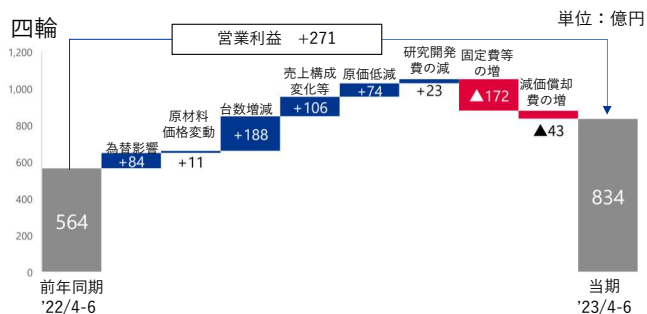
営業キャッシュフローは、前期の仕入部品の価格アップ分を当第1四半期に支払ったこと等、主に一過性の要因により、+86億円の増加に留まりました。

その結果、投資キャッシュフローを合計したフリーキャッシュフローは、▲274億円の減少となりました。

成長戦略の実現に向け、引き続き積極的な設備投資を行っており、資金を余すことなく有効に活用してまいります。

事業セグメント別業績

	'23/4-6				
	売上高		営業利益		利益率
	前年比		前年比		
四輪	10,865	+15.6%	834	+48.1%	7.7%
二輪	864	+0.2%	64	▲22.4%	7.5%
マリン	334	▲2.6%	92	+0.1%	27.6%
その他	25	▲8.5%	7	+11.9%	28.5%
全社計	12,089	+13.7%	998	+33.9%	8.3%



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 11 / 30

次に事業別の業績についてご説明いたします。

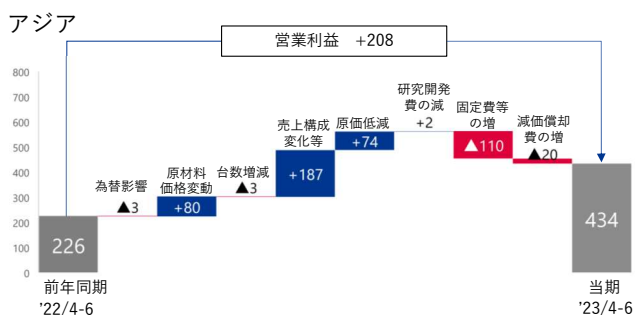
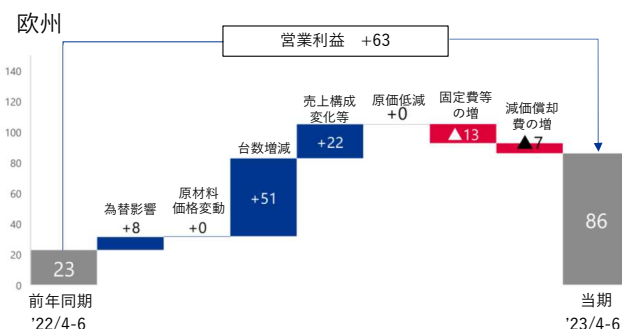
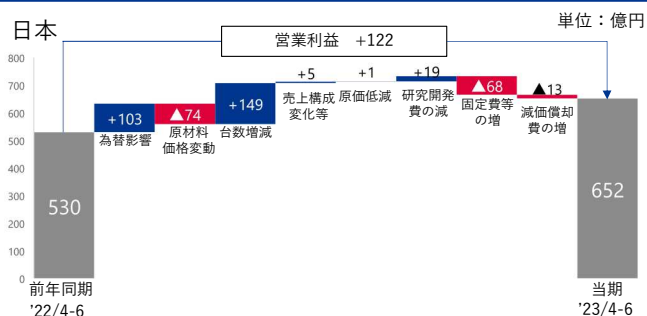
四輪事業につきましては、
台数増加や売上構成変化等の改善により、増収増益となりました。

二輪事業につきましては、
卸販売台数の減少や売上構成変化の悪化等により、売上高は前年並み、
営業利益は減益となりました。

マリン事業につきましては、
減収、営業利益は前年並みとなりました。

所在地セグメント別業績

	'23/4-6				利益率
	売上高	前年比	営業利益	前年比	
日本	6,448	+16.6%	652	+23.1%	10.1%
欧州	2,118	+62.5%	86	+277.5%	4.1%
アジア	6,574	+10.9%	434	+91.7%	6.6%
その他	1,000	▲3.9%	49	▲38.7%	4.9%
全社計	12,089	+13.7%	998	+33.9%	8.3%



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 12 / 30

続いて、所在地別の業績についてご説明いたします。

日本、欧州、アジアで増収増益となりましたが、その他地域では減収減益となりました。

アジアでは、パキスタンでの輸入規制に伴う減産影響により台数減となりましたが、インドでの新車投入効果等による売上構成変化等の改善等により、+208億円の増益となりました。

なお、売上構成変化につきまして、連結全体では+92億円となりますが、これは、生産状況の改善に伴い在庫台数が増加したこと等により、セグメント間取引での未実現利益について損を計上したことによりです。

	ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)			
	当第1四半期	前年同期	増減	当第1四半期	前年同期	増減	
連結業績	売上高	3,085	2,529	+ 556	5,182	4,274	+ 908
	営業利益※2 (利益率)	224 (7.3%)	126 (5.0%)	+ 98	376 (7.3%)	213 (5.0%)	+ 163
	税前利益 (利益率)	323 (10.5%)	135 (5.3%)	+ 188	543 (10.5%)	228 (5.3%)	+ 315
	当期純利益 (利益率)	253 (8.2%)	104 (4.1%)	+ 149	424 (8.2%)	175 (4.1%)	+ 249
	為替レート	1.68円	1.69円	▲0.01円			
	卸販売	国内販売※3	435千台	398千台	+ 36千台		
	輸出※3	63千台	69千台	▲6千台			
	合計	498千台	468千台	+ 30千台			

※1. ルピー建は、7月31日付でマルチ・スズキ・インドシア社が発表した連結業績値

※2. 営業利益は次式により算出
Sales of product
+ Other operating revenues
- Total Expenses
+ Finance costs

※3. 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インドシア社はIndAS (インド版IFRS) に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

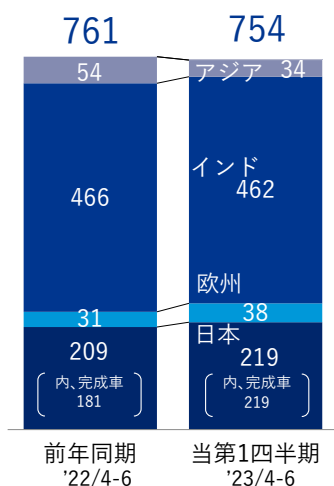
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 13 / 30

7月31日付でインドのマルチ・スズキ・インドシア社が決算を発表していますので、その内容についてご紹介させていただきます。

生産改善に伴う台数増加により、増収増益となりました。

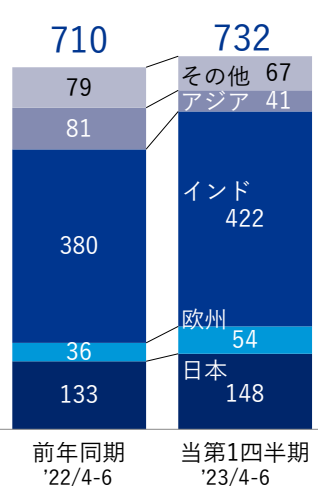
生産実績

▲7千台 (▲1%)
(千台)



販売実績

+22千台 (+3%)
(千台)



● 当期の世界販売

	(千台)	台数	前年同期比	
世界販売		732	+22	+3.0%
日本		148	+15	+11.1%
欧州		54	+18	+48.5%
インド		422	+42	+11.1%
アジア (除インド)		41	▲40	▲49.3%
インドネシア		19	▲1	▲6.2%
パキスタン		7	▲33	▲81.8%
タイ		4	▲2	▲32.3%
その他		30	▲5	▲14.1%
その他		67	▲13	▲15.9%

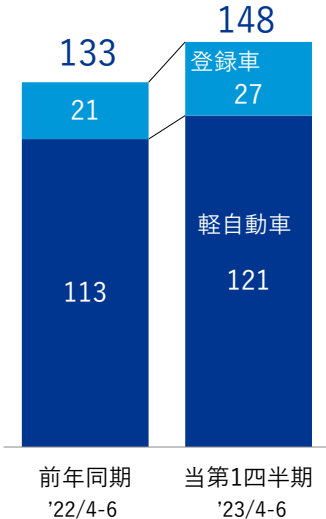
次に生産、販売の状況についてご説明いたします。

まず、四輪車につきまして、
生産台数は、
日本や欧州で増加しましたが、
パキスタン等での減産により、全体でも前年割れとなりました。

販売台数は、
インド、欧州、日本での増加により、全体でも前年同期を上回りました。

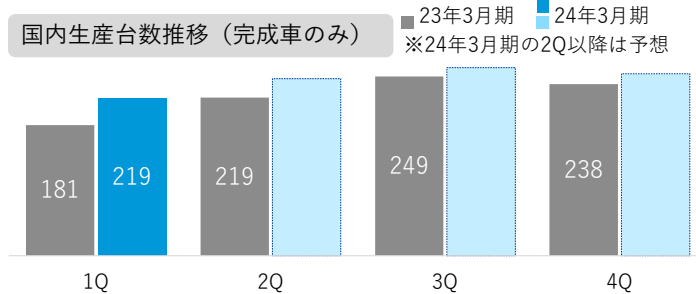
第1四半期実績

+15千台 (+11%)
(千台)



● 国内生産の状況

- ・当第1四半期の国内完成車生産台数219千台、前年同期比+20.7%
- ・増産に伴い販売台数も増加



● 価格改定

- ・今期より、仕様変更に合わせて価格改定を実施
- ・仕様・装備の充実によるコストアップ分に加えて、原材料価格高騰分を反映

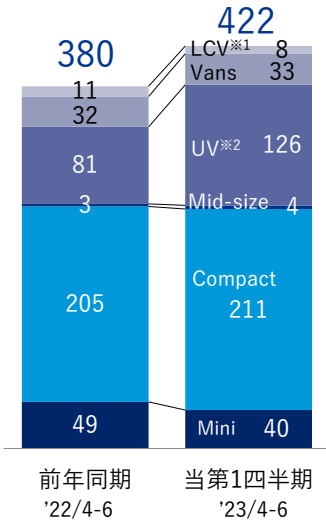
日本の販売実績につきましては、
半導体不足の影響が前年同期よりも減少、
生産台数増加に伴い販売台数も増加しました。

8月以降の生産につきましては、
半導体不足の状況が解消される見込みであり、
お待ちいただいているお客様に1台でも多くお届けできるよう
取り組んでまいります。

また、今期より、仕様変更に合わせて、
仕様・装備の充実によるコストアップ分に加え、
原材料価格高騰分を反映した価格改定を実施しています。

第1四半期実績

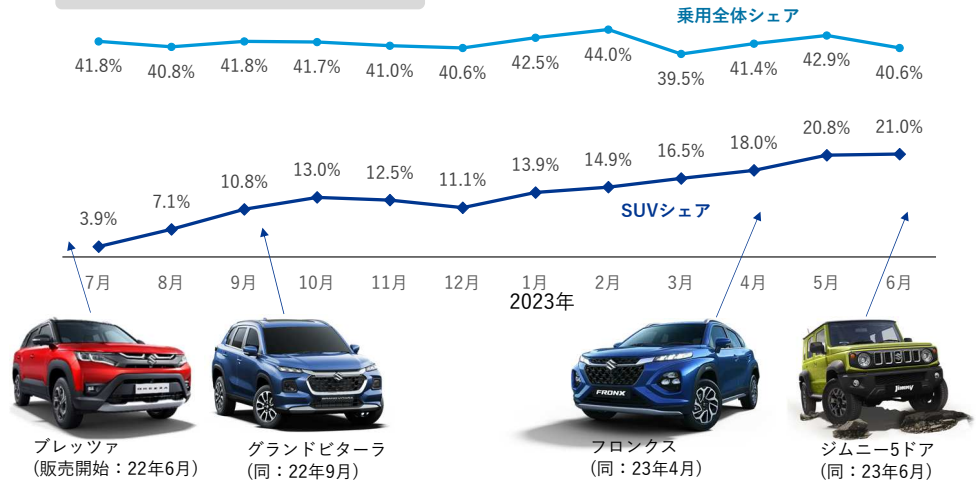
+42千台 (+11%)
(千台)



● 当期のインド販売

・ SUVの投入により、シェア回復を図る

インドでのスズキのシェアの推移



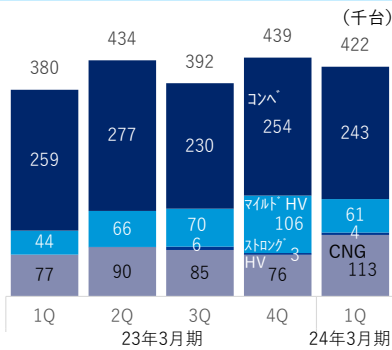
注、左側グラフは商用車含む卸販売実績、OEMを除く ※1 LCV=Light Commercial Vehicles ※2 UV =Utility Vehicles

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 16 / 30

インドの販売実績につきましては、
 新型SUV投入もあり前年同期に比べ+11%増加しました。
 SUVシェアは昨年6月の新型ブレッツァ投入以降、順調に拡大しています。

CNG車、HEVなどを含めた「多様な道筋」でカーボンニュートラルに貢献

パワートレイン別 販売台数



● パワートレイン別販売状況

- ・ CNG車、HEVなど多様な選択肢を提供
- ・ CNG車設定モデルの拡大⇒当1Qの販売台数は過去最高の11万台
- ・ CNG車とHEVを合わせた構成比…販売全体の4割を占める

● CNG車の環境性能

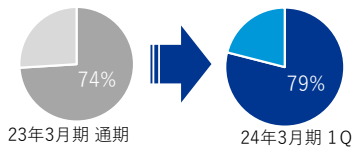
- ・ CNG車はガソリン車に比べてCO2排出量▲17%
- ・ インド政府もカーボンニュートラル達成に向けてCNG車の活用を掲げる

CNG車とガソリン車の経済性の比較例…ワゴンR LXI 5MT比較

	末端価格	燃費	燃料価格	1万キロ走行時	
				燃料代	CO ₂ 排出量
ガソリン車	554.5千Rs	24.35km/L	96.8Rs/L	40千Rs	974kg
CNG車	644.5千Rs	34.05km/kg	73.6Rs/kg	22千Rs	805kg
差異	+90千Rs	-	-	▲18千Rs	▲169kg
			差異率	▲46%	▲17%

注. 末端価格 … 23年7月27日現在、燃料価格…23年7月27日デリー価格
CO₂排出量 … インド電力省 "SO 1072E dt 23rd April 2015"に基づき算出

CNG車のマーケットシェア (乗用車)



インドにおけるカーボンニュートラルについては、CNG車、HEVなど多様な選択肢を提供してまいります。なお、BEVは24年度に投入予定です。

特に、CNG車は、設定モデルを拡大することで、当第1四半期の販売台数は過去最高の11万台となりました。

パワートレイン別の構成比について、CNG車とHEVの合計で、販売全体の4割を占めるまで拡大しています。

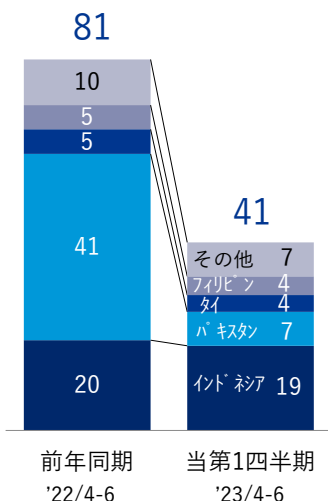
CNG車のマーケットシェアにつきましても、前期の74%から79%へとシェアを拡大しました。

CNG車は通常のガソリンエンジン車に比べてCO2排出量が17%低く、より環境にやさしい車です。

インド政府もカーボンニュートラル達成に向けてCNG車の活用を掲げています。

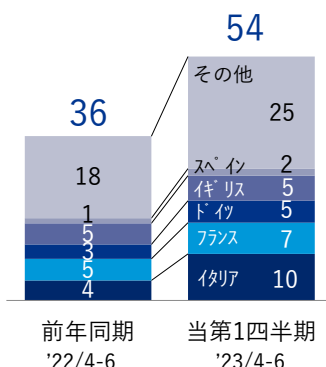
アジア（インド除く）

▲40千台（▲49%）
（千台）



欧州

+18千台（+49%）
（千台）



インドネシア | グランドビタラ発売（23年2月）



欧州 | S-CROSSにもストロングハイブリッドを追加（22年10月）

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 18 / 30

インドを除くアジアでの販売実績につきましては、前年同期に比べ減少しました。

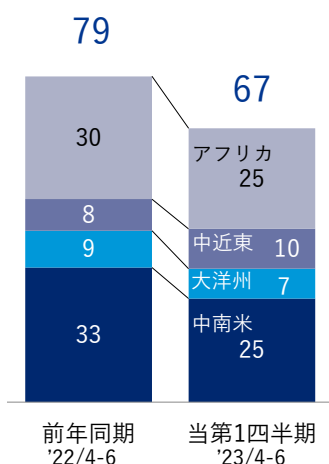
パキスタンでは、輸入規制により、KD部品の輸入が制限される状況が継続しており、減産に伴い販売台数が減少しました。

欧州につきましては、前年同期は自動車専用船不足による輸送影響や半導体不足影響により、車両供給不足の状況となっていましたが、

当期は年間を通して船腹を一定数確保していることに加え、日本・欧州での増産に伴い、販売台数を伸ばしました。

第1四半期実績

▲13千台 (▲16%)
(千台)



● 当期の販売

(千台)	台数	前年同期比	
アフリカ	25	▲5	▲18.1%
南アフリカ	12	▲1	▲7.7%
アンゴラ	4	+3	+230.6%
コートジボワール	3	+1	+40.0%
エチオピア	1	▲2	▲66.2%
エジプト	1	▲5	▲81.2%
中近東	10	+2	+26.3%
サウジアラビア	5	+2	+61.0%
大洋州	7	▲2	▲18.9%
オーストラリア	5	▲2	▲30.8%
中南米	25	▲8	▲23.1%
メキシコ	8	▲2	▲21.4%
チリ	4	▲2	▲33.2%
コロンビア	2	▲4	▲62.3%

その他地域の販売実績につきましては、アフリカ、大洋州、中南米で販売台数が減少しました。

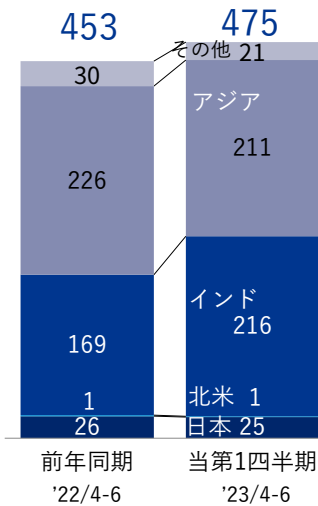
アフリカの販売減少につきましては、エチオピアとエジプトにて、外貨規制に伴う輸入規制の影響がありました。

中南米の販売減少につきましては、メキシコでは、現地での港混雑に伴う物流の不足に伴い一時的に販売が減少しました。

チリやコロンビアでは、インフレ進行と金利上昇による全体市場減速の影響がありました。

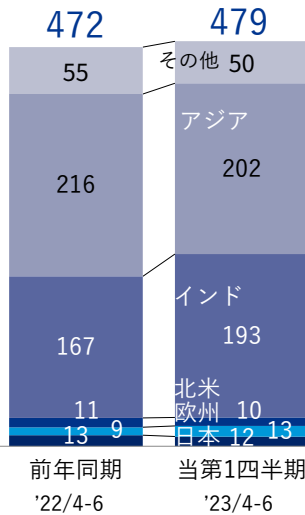
生産実績

+23千台 (+5%)
(千台)



販売実績

+7千台 (+1%)
(千台)



● 当期の世界販売

(千台)	台数	前年同期比	
世界販売	479	+7	+1.5%
日本	12	▲2	▲12.1%
欧州	13	+3	+33.4%
北米	10	▲1	▲9.0%
インド	193	+26	+15.4%
アジア (除インド)	202	▲14	▲6.4%
中国	123	+3	+2.1%
フィリピン	41	▲7	▲14.6%
その他	38	▲9	▲19.8%
その他	50	▲6	▲10.2%
中南米	45	▲4	▲8.8%
その他	4	▲1	▲22.2%

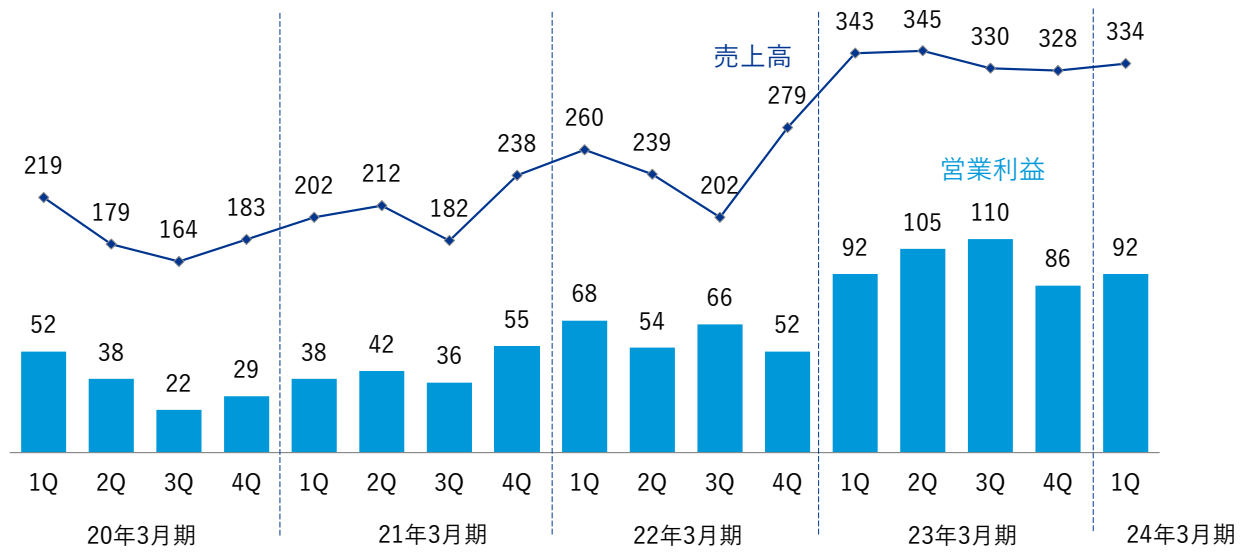
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 20 / 30

二輪車につきまして、生産、販売ともに増加しました。

インドでの125ccスクーターの販売拡大が、生産・販売ともに二輪車全体をけん引しました。

また、欧州では新型モデル GSX-8SとVストローム800の投入効果等により販売が増加しました。

マリン事業 売上高・営業利益推移 (億円)



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 21 / 30

マリン事業につきましては、
 中・小型の船外機の販売に減速感がみられますが、
 大型については堅調に推移しており、
 売上高は前年同期を若干下回ったものの、
 営業利益は前年並みとなりました。

依然、前期に続いて、高水準の業績を維持しています。

通期業績予想 | 総括

(億円)	当期 ('23/4-'24/3)	前期 ('22/4-'23/3)	増 減		補足	前回予想比較	
				増減率		前回予想	増減
連結 業績	売上高	50,000	46,416	+3,584	+7.7%	3期連続増収	49,000 +1,000
	営業利益 (利益率)	3,600 (7.2%)	3,506 (7.6%)	+94	+2.7%	2期連続増益	3,300 (6.7%) +300
	経常利益 (利益率)	3,700 (7.4%)	3,828 (8.2%)	▲128	▲3.3%	4期振り減益	3,400 (6.9%) +300
	当期純利益 [※] (利益率)	2,100 (4.2%)	2,211 (4.8%)	▲111	▲5.0%	4期振り減益	1,900 (3.9%) +200
為替 レート	米ドル	134円	136円	▲2円	▲1.1%		130円 +4円
	ユーロ	148円	141円	+7円	+5.0%		142円 +6円
	インドルピー	1.64円	1.70円	▲0.06円	▲3.5%		1.60円 +0.04円
世界 販売	四輪車	3,181千台	3,000千台	+181千台	+6.0%		3,186千台 ▲5千台
	二輪車	1,919千台	1,860千台	+59千台	+3.2%		1,941千台 ▲22千台
配当	一株当たり 年間配当金	100円以上	100円	-	-	-	100円以上 -

※ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 22 / 30

通期業績予想についてご説明いたします。

第1四半期実績および期初からの経営環境の変化を踏まえ、業績予想を見直しました。

為替前提につきましては、円安方向に見直しました。

台数見通しにつきましては、第1四半期実績、および今後の市場見通しを反映し、四輪車・二輪車ともに見直しました。

その結果、売上高は5兆円、営業利益は3,600億円へ、それぞれ上方修正しました。

売上高は初の5兆円の大台を、営業利益は前期を上回る利益を見込んでいます。

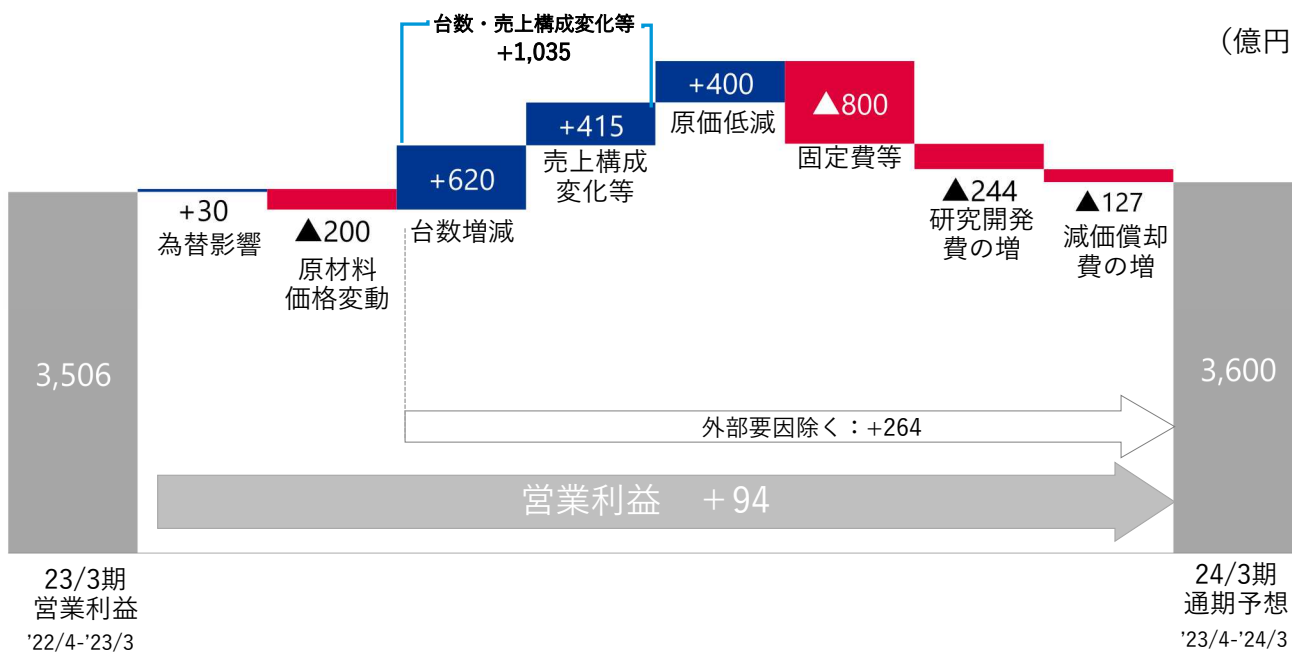
四輪車の販売につきましては、前回予想から▲5千台下方修正しました。

二輪車の販売につきましては、前回予想から▲22千台下方修正しました。

配当につきましては、前回予想から変更ございません。

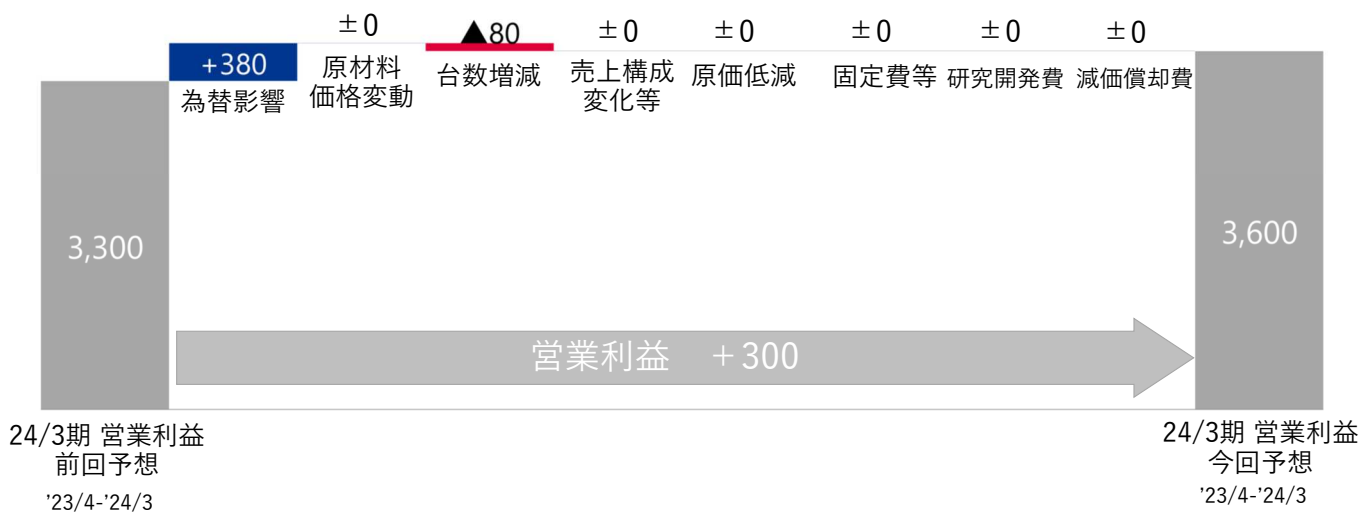
通期業績予想 | 営業利益増減要因・対 23/3期 実績

(億円)



前期に対する 営業利益の増減要因はご覧の通りとなります。

(億円)



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 24 / 30

前回予想からの増減としては、
為替影響で+380億円の上方修正、台数影響で▲80億円の下方修正となり、
合計+300億円上方修正いたしました。

為替と台数以外の項目につきましては、見直しておりません。
固定費等は、1Q実績の進捗もほぼ期初計画通りであり、
見直しについても変更ありません。

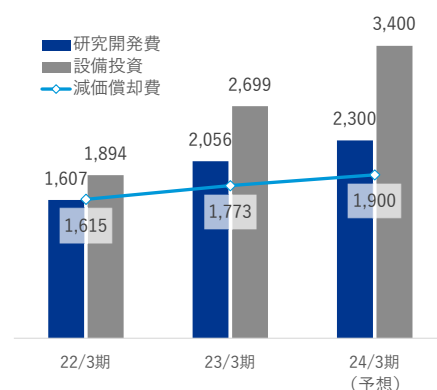
コロナ感染拡大以降、経営環境の変化のスピードが速くなり、かつ、
影響度合いも拡大傾向にあります。
業績予想につきましては、今後も必要に応じて見直しを行い、
ステークホルダーの皆様へお示ししていきたいと考えています。

通期業績予想 | 為替レート・設備投資等

	<為替レート>			前期実績	増減	<前期比 為替影響額>	
	通期予想		営業利益影響(億円)			感応度*	影響額
	7-3月前提	前回予想					
ユーロ	148円	148円	142円	141円	+7円	17	+128
メキシコペソ	7.57円	7.50円	7.10円	6.91円	+0.66円	134	+89
ポンド	171円	170円	162円	163円	+7円	5	+38
インドルピー	1.64円	1.62円	1.60円	1.70円	▲0.06円	1,849	▲111
南アフリカランド	7.17円	7.10円	7.20円	7.99円	▲0.82円	65	▲53
パキスタンルピー	0.48円	0.47円	0.46円	0.61円	▲0.13円	148	▲19
オーストラリアドル	90円	89円	88円	93円	▲3円	5	▲15
米ドル	134円	133円	130円	136円	▲2円	11	▲15
その他通貨	-	-	-	-	-	-	▲12
営業利益為替影響額 合計						-	+30

※感応度…レートが1円動いた際の営業利益影響額

	(億円)	通期予想	<設備投資・減価償却費・研究開発費>	
			前期実績	増減
設備投資	3,400	2,699	+701	
減価償却費	1,900	1,773	+127	
研究開発費	2,300	2,056	+244	

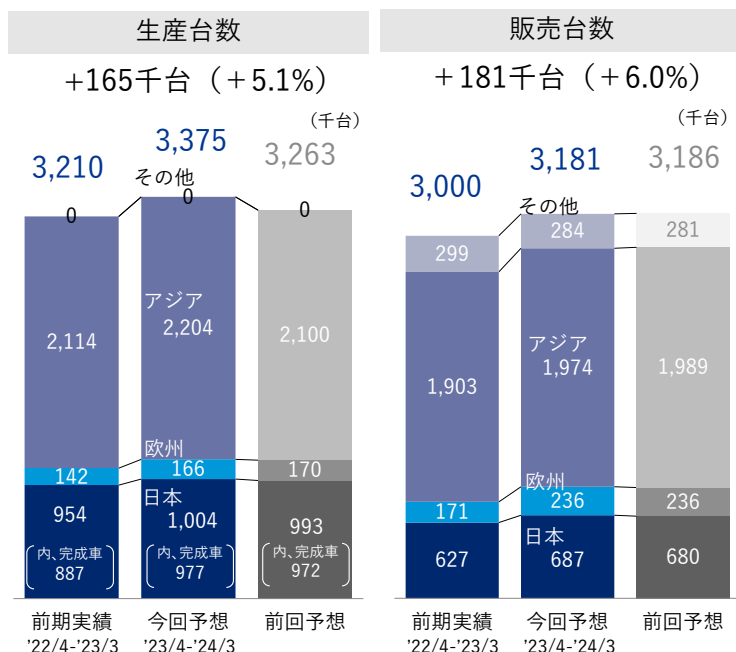


© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 25 / 30

今回、期初計画から見直した点について、ご説明いたします。

まず、為替レートにつきましては、
 期初からの円安進行を踏まえ、
 前回予想の前提1ドル130円から、今回134円へ見直しました。
 ドル以外の通貨もスライドの一覧表の通り見直しました。
 その結果、為替影響額は前回予想の▲350億円から、
 今回+30億円へ改善しました。

なお、設備投資、償却費、研究開発費につきましては、
 前回予想 据え置きとしています。



●生産台数

(千台)	通期予想	前期実績	増減	増減率	前回予想からの増減
世界生産	3,375	3,210	+165	+5.1%	+112
日本	1,004	954	+50	+5.2%	+11
欧州	166	142	+24	+16.8%	▲4
アジア	2,204	2,114	+91	+4.3%	+105
その他	0	0	+0	-	+0

●販売台数

世界販売	3,181	3,000	+181	+6.0%	▲5
日本	687	627	+60	+9.6%	+7
欧州	236	171	+65	+37.7%	▲0
アジア	1,974	1,903	+71	+3.7%	▲15
インドは市場成長率（前年比+5~7%）を上回る見通し					
その他	284	299	▲15	▲5.0%	+3

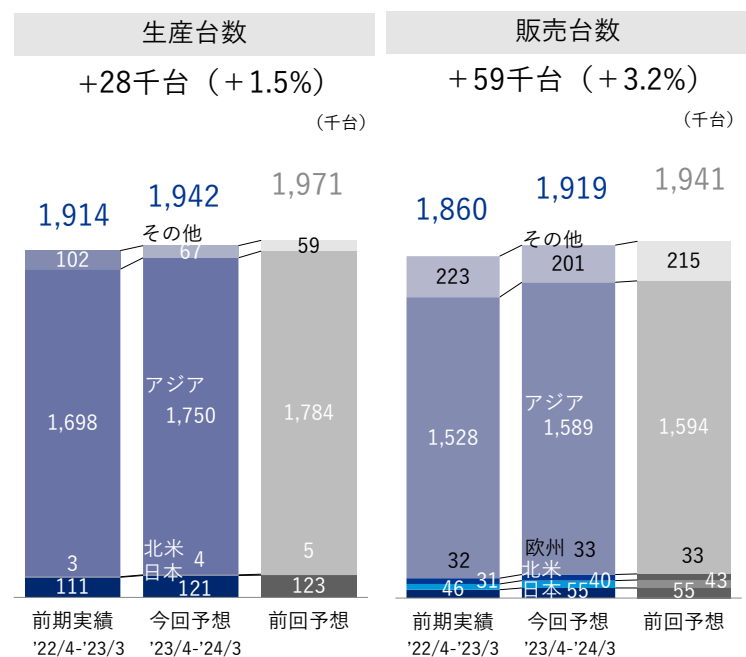
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 26 / 30

次に台数の見直しについてご説明いたします。

四輪車の生産台数につきましては、日本やインド等で上方修正し、世界生産で+11万2千台上方修正しました。

販売台数につきましては、今後の市場見通しを踏まえ、アセアン等で下方修正し、世界販売で▲5千台下方修正しました。

なお、インド四輪の販売台数見直しにつきましては、前回予想から変更ありません。インド四輪の市場成長率は前年比+5~7%の予想で、当社のインド四輪販売台数はこれを上回る見通しです。



●生産台数

(千台)	通期予想	前期実績	増減	増減率	前回予想からの増減
世界生産	1,942	1,914	+28	+1.5%	▲29
日本	121	111	+10	+9.0%	▲2
北米	4	3	+1	+20.9%	▲1
アジア	1,750	1,698	+52	+3.1%	▲34
その他	67	102	▲35	▲34.1%	+9

●販売台数

	通期予想	前期実績	増減	増減率	前回予想からの増減
世界販売	1,919	1,860	+59	+3.2%	▲22
日本	55	46	+9	+20.8%	±0
欧州	40	31	+9	+30.1%	▲3
北米	33	32	+1	+2.8%	+0
アジア	1,589	1,528	+61	+4.0%	▲5
その他	201	223	▲21	▲9.5%	▲14

© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 27 / 30

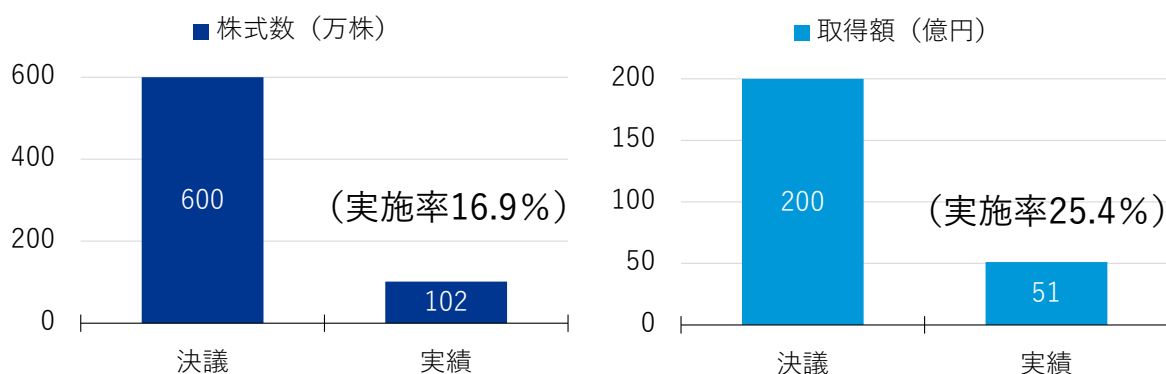
続きまして、二輪車の見通しです。

生産台数につきましては、主に中国で下方修正を行い、世界生産で▲29千台下方修正しました。

販売台数につきましては、中南米や中国等で下方修正を行い、世界販売で▲22千台下方修正しました。

5月15日取締役会決議・対外発表

- ・ 取得し得る株式の総数（上限） : 600万株（普通株式）
- ・ 株式の取得価額の総額（上限） : 200億円
- ・ 株式の取得期間 : 2023年5月16日～2023年9月30日



© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved. 28 / 30

最後に、自己株取得の状況です。

5月15日の前回の決算にて自己株取得の実施を発表させていただきました。
7月31日時点の進捗状況は、
取得株式総数 102万株、取得価額 51億円となります。

期日までに上限額を取得できるよう、進めてまいります。



隼
Hayabusa

25周年
記念限定カラー

300台限定（抽選販売）

[SUZUKIに関連する商品が何でも揃う場所へ](#)

 S-MALL
<https://s-mall.jp>

2024年3月期 第1四半期決算説明会

2023年8月4日
スズキ株式会社

ご清聴ありがとうございました。

（参考）裏表紙画像

- ・隼 オレンジと黒を基調とした25周年記念限定カラー
- ・スズキ公式のオンラインストア「S-MALL」にて300台限定で抽選販売



将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。